



朱一だより

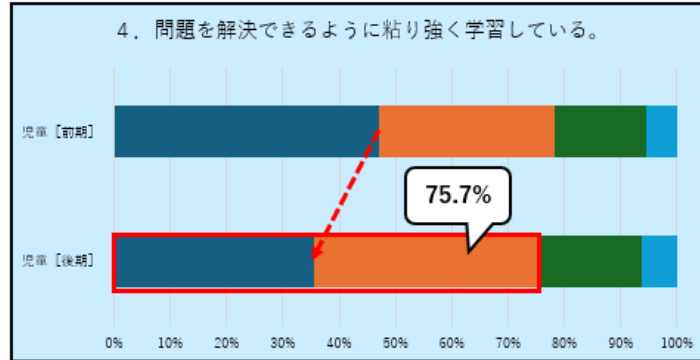
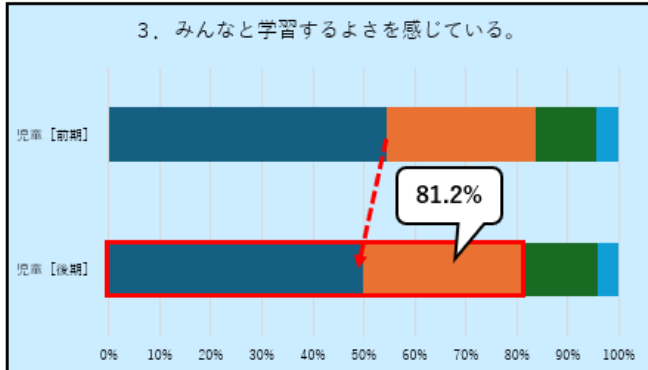
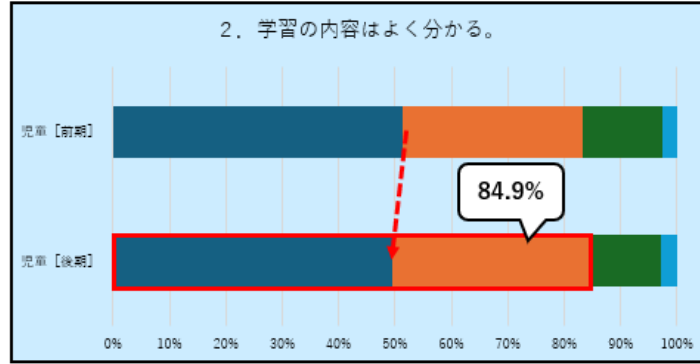
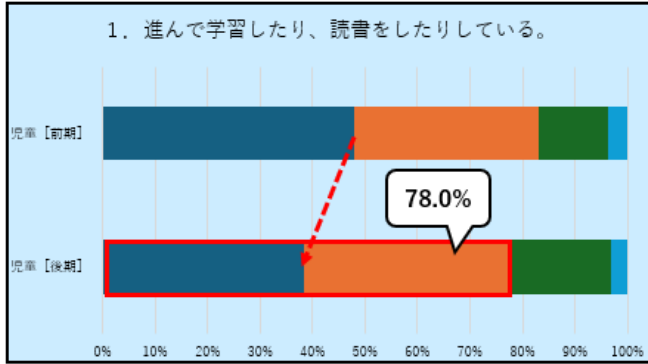
進んで学習する子

令和7年度
特別号
京都市立朱雀第一小学校
Tel 841-3201
校長 宮下 佐知子

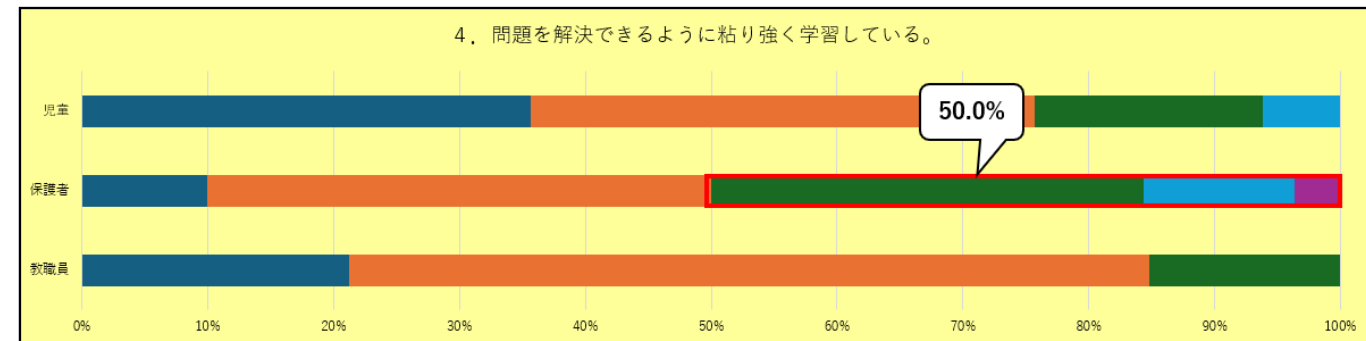
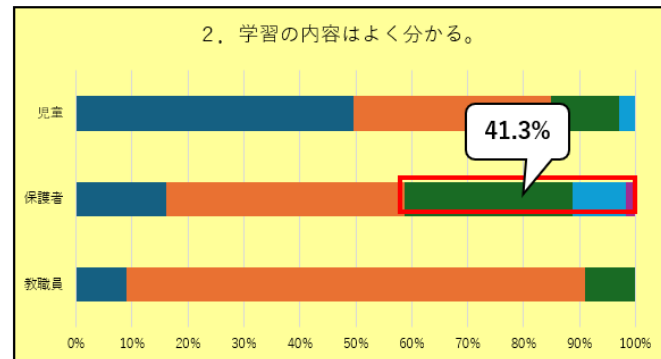
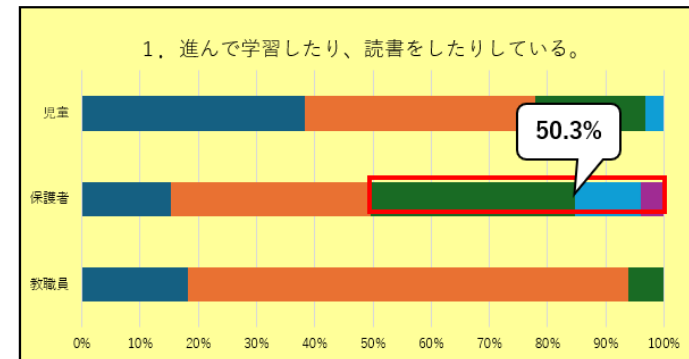
【令和7年度朱一つながりアンケート結果報告】

朱一つながりアンケートにご協力いただきありがとうございました。

前期と同様、学校と家庭が同じ目線で子ども達を育てていくという観点から児童は自分自身について、保護者はお子さんの様子やご家庭での取組について、教職員は学校での児童の様子や学校での取組についての内容項目で実施しています。結果について、ご報告いたします。



児童の回答は、どの項目においても肯定的な回答が80%前後ですが、前期の結果より割合が低くなっており、「あまりあてはまらない」の回答が増えています。数値が前期から下がりつつも80%前後を維持できていたのは、1時間の授業での大切にしたい主体性、課題解決力・コミュニケーション力を意識して授業づくりを行ってきた結果だと思われれます。ただ、子どもたちの数値が下がるのは、「自分が成長していること」「自分が頑張ったこと」など積み上げが実感できていないのかもしれないと考えます。「これだけできるようになっている」と実感できるようなふり返りの工夫を、教職員が考えていくことがこれからの改善点と考えます。



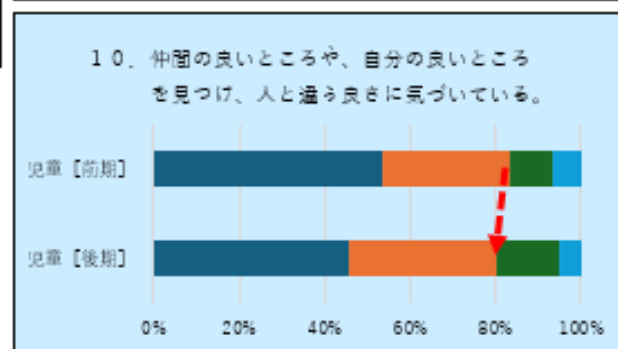
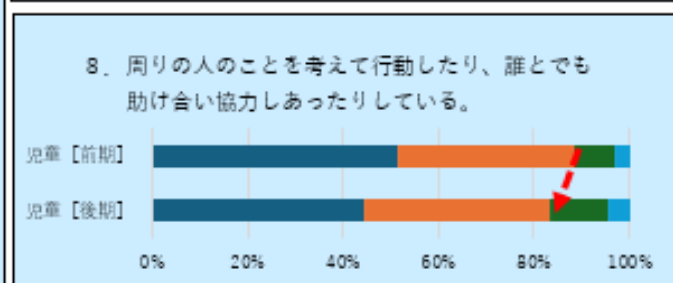
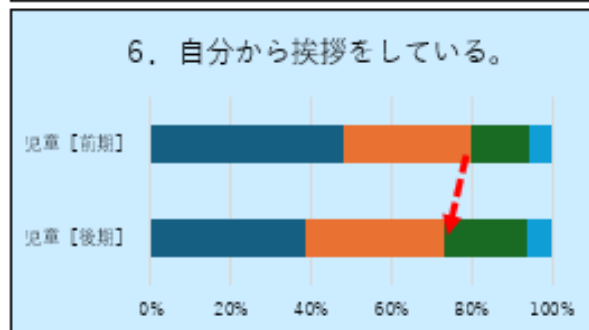
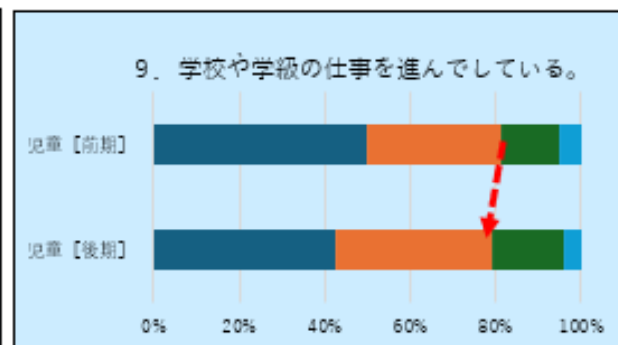
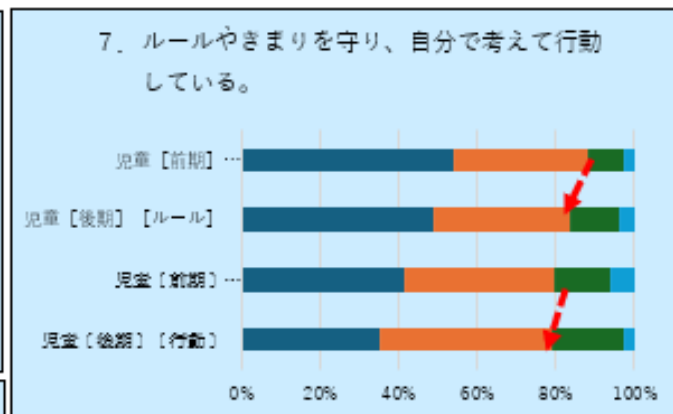
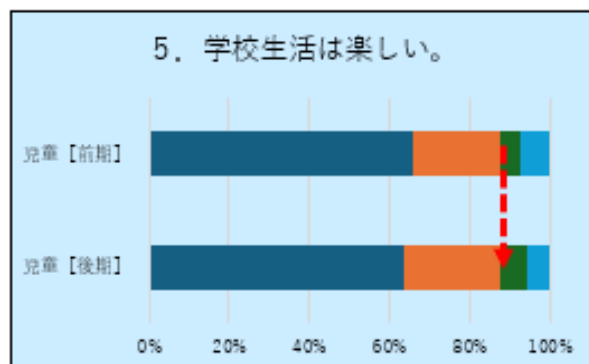
保護者の回答では、『1.進んで学習をしたり、読書をしたりしている。』『4.問題を解決できるように粘り強く学習している。』の項目で、様子が「わからない」という回答が約5%あり、この結果と否定的な回答を合わせると50%近くになるという回答結果です。

現在、学年だよりやHP等で学校の取組を発信したり、懇談会で児童の様子や学校での取組を伝えたりすることにも力を入れています。なかなか結果には表れていないのが現状だと分析します。今後、さらに教職員ができることとしては、児童と向き合い、児童に「自分は成長した」と実感できるよう働きかけていくことが最大の対策と考えます。

教職員は、学習の楽しさが伝わるよう、また理解が深まるよう、そして学び合う楽しさを感じられるような指導方法を工夫するために自ら研鑽に努めています。今後も教職員同士のつながりを生かし、授業を見合い、アドバイスし合う中で、高め合っていけるような機会を増やしていくことを続けていきます。

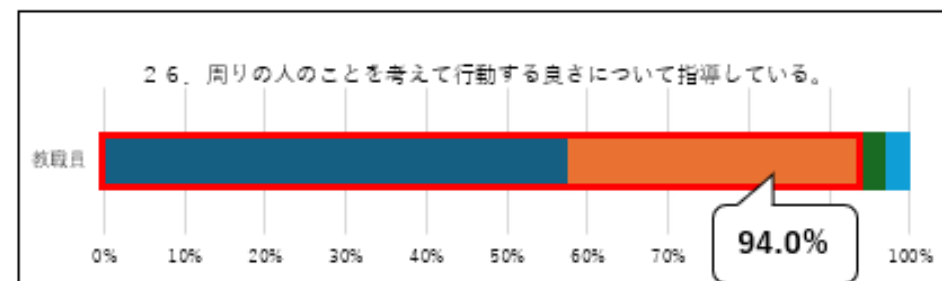
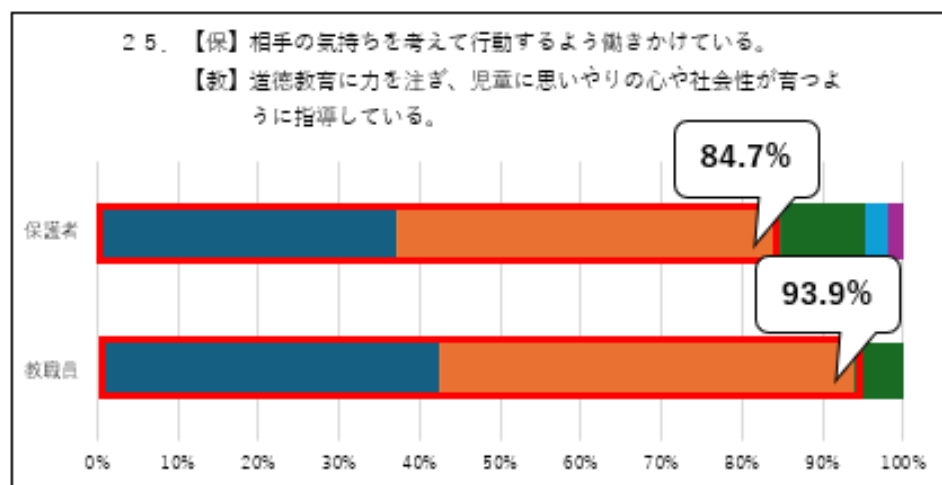
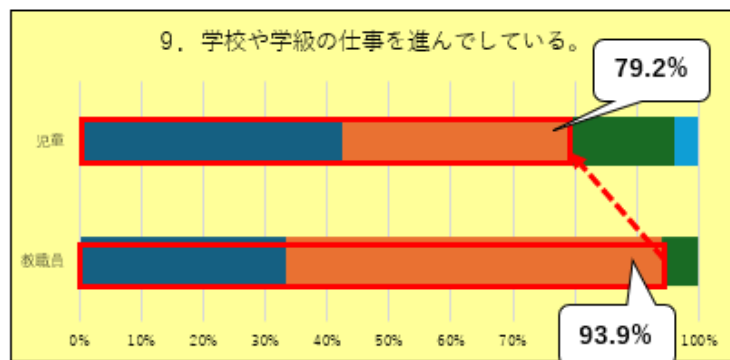
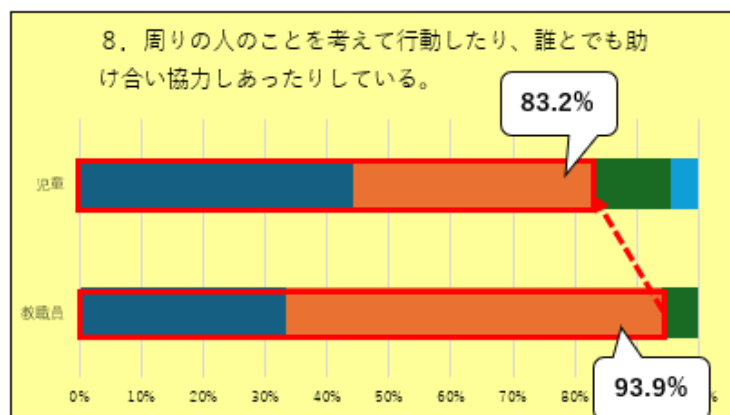


思いやりのある子



児童の回答を見ると、前期に比べ、肯定的な回答の割合が低くなっています。1学期末と比べ、自分自身を厳しく見つめられるようになってきたと捉えることもできますが、肯定的回答の中でも「よくあてはまる」の回答が減り、「あてはまる」の回答が増えている項目が多いことにも、前期に感じていた気持ちの高まりを維持することの難しさを感じます。

改善するためには、「大切にしていきたいこと」の意義を指導する側が共通理解し、同じ目線で指導していく必要があると考えます。思いやりのある子を育成する上で大切に育てていきたい視点を伸ばすためには、大人が同じ目線で児童に伝えていくことが必要だと考えます。そのためには、家庭との連携も必要不可欠だと感じます。さらにご家庭への発信を続けていきたいと考えます。

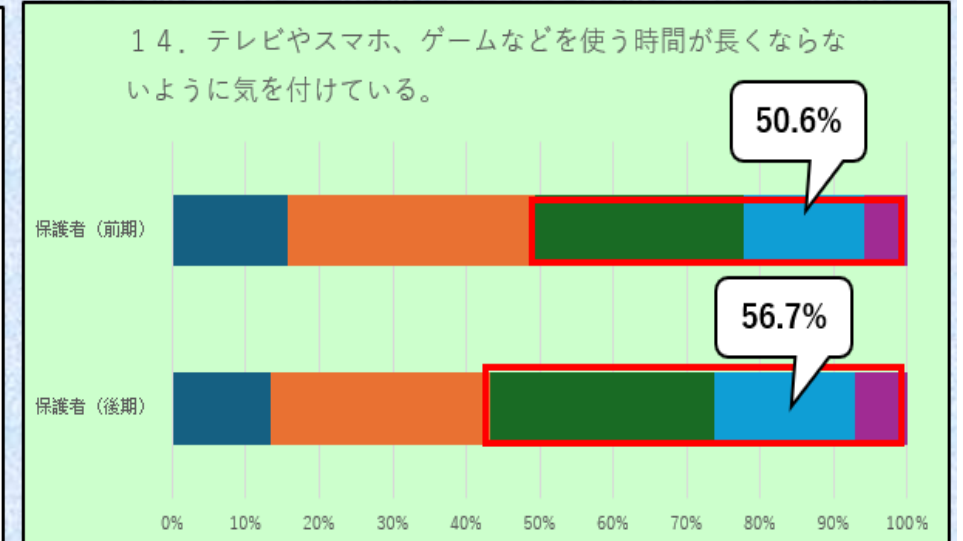
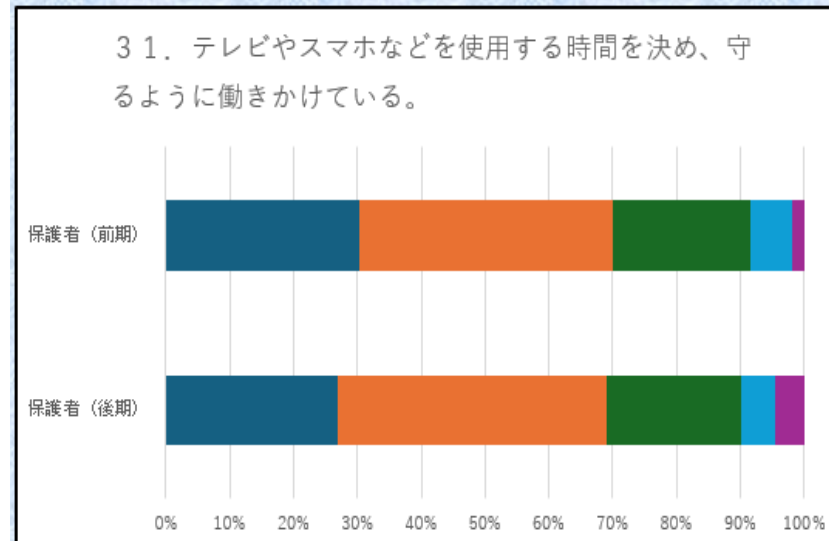
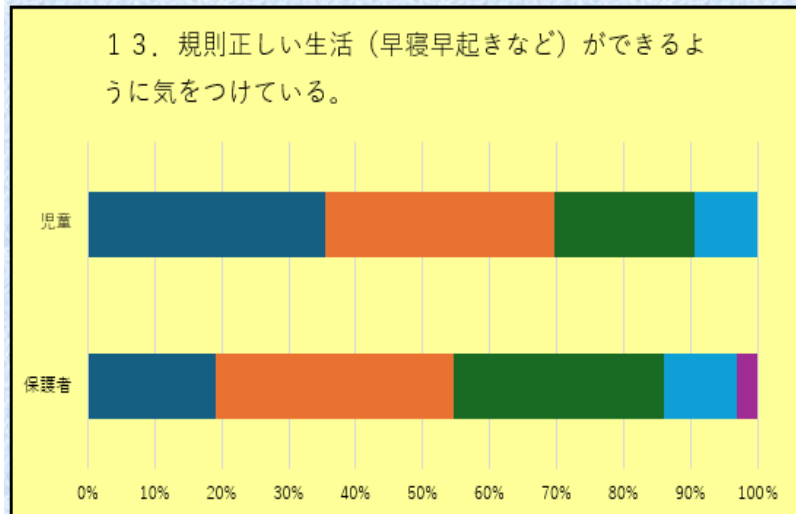
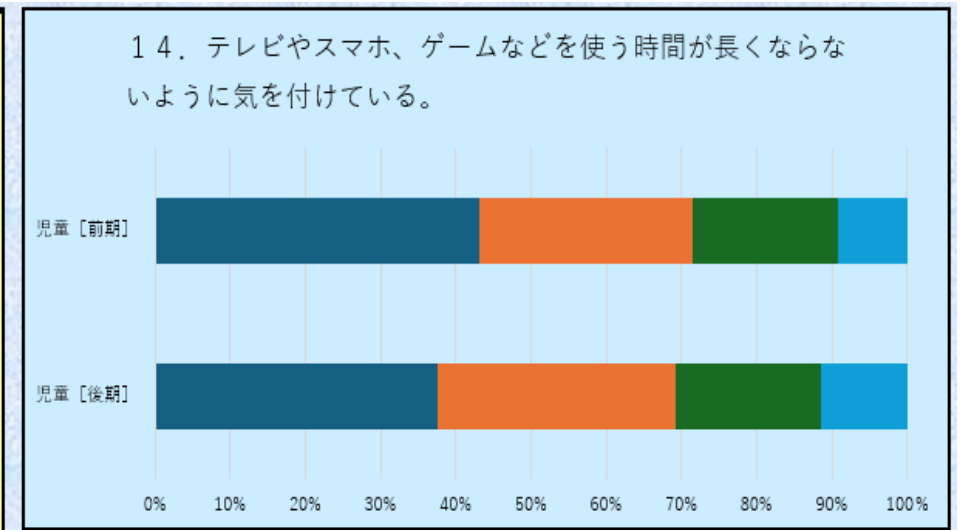
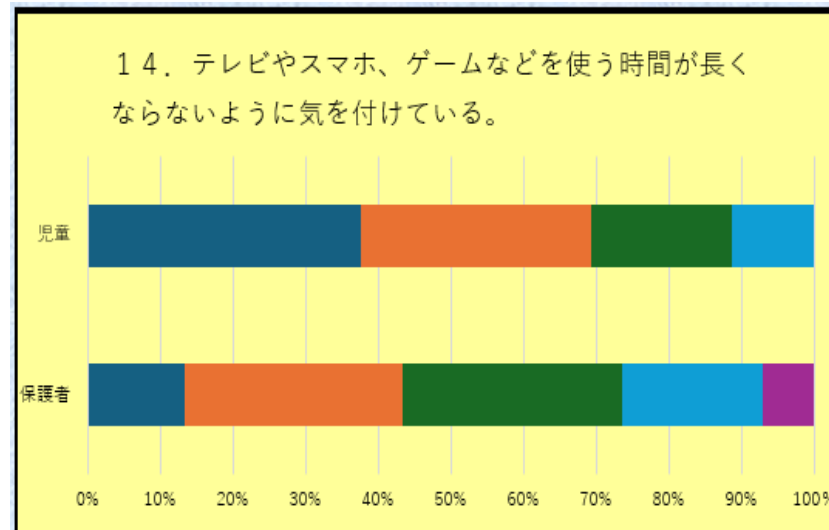
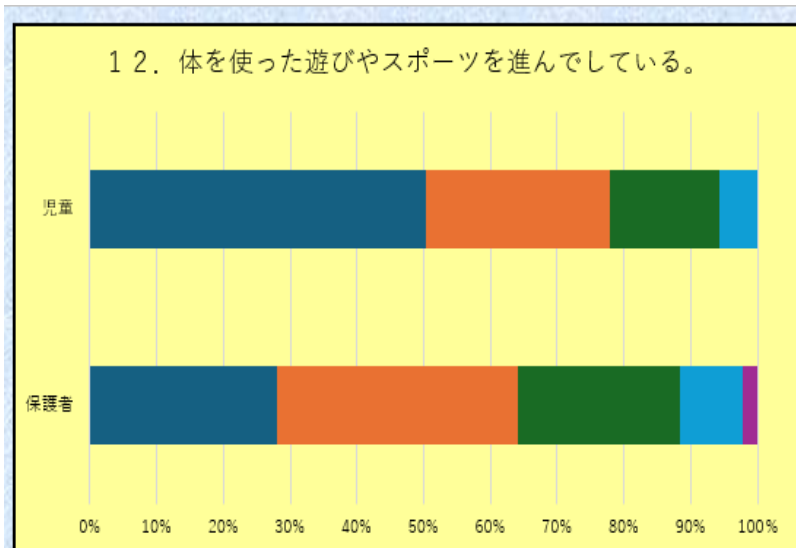


『8.周りの人のことを考えて行動したり、誰とでも助け合い協力しあったりしている』『9.学校や学級の仕事を進んでしている』という項目では、どちらも児童の行動への教職員の見立ては高いですが、児童の肯定的な回答は80%前後です。この2項目に関する保護者、教職員の働きかけを問う項目（25項目、26項目）からは、しっかりと児童へ働きかけているという結果がうかがえます。

相手の気持ちを考えて行動できるようになるための改善点としては、児童に望ましい、または望ましくない行動が見られたときに、フィードバックをする必要があるということです。助け合いの行動を、担任、保護者、周りの友だちから伝える機会を作ることが意識を高める効果につながるのではないかと考えます。



心も体も元気な子



1 2・1 3の結果は、前期とあまり変化がない結果となりました。1 4のICTに関する項目についても、児童の回答は前期とあまり変化はありませんが、保護者がお子さんを評価した回答では、否定的な回答が5割以上あり、前期と比べても低下していることがわかりました。ご家庭でICTに関しての困りが増加していても、どう対応していいのか保護者自身も困っている様子が見られる現状です。

学校としては、情報モラル教室を実施したり、全市の問題行動などの情報をもとにその都度指導したりする機会を設けていますが、ご家庭でのルールを優先される事象でもあり、学校側が事前に対策をとることが難しい事案だということを感じている現状です。学校では、引き続き児童への情報モラルの指導などを継続していきます。

<おわりに>
アンケートへのご協力、ありがとうございました。ここに載せられなかった他の項目の結果については、学校ホームページに掲載しています。

今回、皆様からいただいたご意見と集計結果を踏まえ、学校教育目標「よりよく生きるために、自ら考え、行動する子」の育成を目指して、さらに学校の取組の改善を行っていきたく思います。今後も、ご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。